

< Veinlite の治験結果 >

治験名：小児救急科におけるベインライト透光法による療法手技的治験

Veinlite Transillumination in the Pediatric Emergency Department,
Therapeutic Interventional Trial

治験機関：ボストン小児病院 The Boston Children's Hospital

治験対象：16ヶ月の小児（平均）、240症例をベインライト使用と不使用に均等分割。

治験結果：静脈検知成功率：

| | <u>ベインライト</u> | <u>ベインライト</u> | |
|------------|---------------|---------------|-------------|
| <u>不使用</u> | <u>使用</u> | | |
| 1回目の試技 | 74% | 85% | （医師、看護師が実施） |
| 2回目の試技 | 42% | 66% | （医師、看護師が実施） |

* 2回目の試技は、検知できにくい静脈で試された。

（出典）

“Pediatric Emergency Care, Volume 24, Number 2, February 2008, 83-88”
（小児救急看護 第24巻、2号、2008年2月、ページ83-88）

結果の分析：

1回目のベインライト不使用（目視）試技では、静脈検知成功率は、74%で、ベインライト試技では、85%、両試技間の検知成功率は、11%の開きがある。また1回目のベインライト不使用試技で検知できなかった症例は26%（100%－74%）で、ベインライト試技では、15%（100%－85%）。例えば、100症例中、目視では静脈検知できなかった26症例が、ベインライトを使用すれば、15症例に減少したことを意味する。その検知向上率は、約58%（15/26）である。

また2回目の試技での検知成功率は、それぞれ42%、66%で、両試技間の検知成功率は、24%の開きがある。検知しにくい症例では、両試技間の検知成功率は、更に大きな開きができることになる。また検知不成功率は、それぞれ58%（100%－42%）、34%（100%－66%）である。その向上率は、約59%（34/58）である。検知しにくい症例についても、ベインライトを使用すれば、1回目の試技での検知成功率と同等の向上が認められる。

静脈を検知しにくい患者に対するベインライト試技は、その有用性が更に増大する。